

### 鈴木正三と医王寺

医王寺は山号を松応山といい、曹洞宗である。  
正治年間（1199～1202）鈴木平内太夫重善が善阿弥と称し、天台宗の草庵を創立、医王寺と号したのがはじまりと伝えている。

その後、堂宇は荒廃したが、寛永8年（1631）に、鈴木正三が修復している。

江戸時代中期に近江国彦根、清凉寺の高外全国和尚（1742没）が住職のとき、曹洞宗に改宗したという。本尊仏は薬師如来像。



### 鈴木正三の生涯

戦国時代（武断政治）の末期から四代将軍家綱（文治政治）が始まるまで、正三は幾度も戦争の悲惨さを見聞きした。



正三 4 歳のとき	天正 10 年（1582）	本能寺の変（織田信長自害）
正三 12 歳のとき	天正 18 年（1590）	後北条氏滅亡
正三 12 歳のとき	天正 18 年（1590）	家康の関東移封により下総国塩子村に住む
正三 14 歳のとき	文禄元年（1592）	文禄の役。秀吉が明の征服を目的に朝鮮出兵
正三 22 歳のとき	慶長 5 年（1600）	関ヶ原の戦、秀忠軍に従い信州上田で初陣
正三 36 歳のとき	慶長 19 年（1614）	大坂冬の陣、戦功あって 200 石加増
正三 37 歳のとき	慶長 20 年（1615）	大阪夏の陣に参戦
正三 41 歳のとき	元和 5 年（1619）	大番に列し大坂城番士を勤める。『盲安杖』
正三 42 歳のとき	元和 6 年（1620）	江戸で剃髪。則定の鈴木家は重成が継ぐ
正三 46 歳のとき	寛永元年（1624）	石ノ平（豊田市山中町）で修行。後の恩真寺
正三 59 歳のとき	寛永 14 年（1637）	天草島原の乱。弟重成は鉄砲奉行として参戦
正三 64 歳のとき	寛永 19 年（1642）	重成の助言者として天草に行く
正三 70 歳のとき	慶安元年（1648）	江戸に出て、諸人に法話
正三 73 歳のとき	慶安 4 年（1651）	徳川家光、没す。四代将軍家綱
正三 75 歳のとき	承応 2 年（1653）	重成、天草の年貢半減を訴え、江戸にて没す
正三 77 歳のとき	明暦元年（1655）	駿河台の弟重之の屋敷にて遷化



—10人会—リレー・エッセー— 823 — 2022.7.29

七月中旬、豊田市立矢並小学校にて郷土の偉人鈴木正三について話した。  
鈴木正三に関心を持ってもらうために「鈴木という名字の人は手を挙げてください」と聞いた。二名の児童が鈴木姓だった。「今からお話する鈴木正三と昔々に親戚だったかも知れませんが」とあながち嘘とは言えないことを伝えた。  
矢並小学校の前身は明治25年、医王寺内に創設された四谷尋常小学校である。新築移転した今でも医王寺は目と鼻の先のところにある。その医王寺を創建したのは鈴木重善(善阿弥)という武士である。今から約八百年前のこと。

今できることを心からする



佐藤一道

人として生まれることは奇跡

最大の功労者。しかし兄頼朝の不興を買ひ、義経は奥州へ逃れた。義経に加勢せんと紀州を出発した鈴木重善は三河国矢矧まで来たところで足を痛めてしまった。しばらく療養していると義経が死んだとの知らせが届いた。重善は奥州行きをあきらめ、三河国加茂郡高橋庄矢並郷に居住。そして医王寺創建の開基となった。重善には子孫があった。その子孫が矢並鈴木、市木鈴木、寺部鈴木、則定鈴木、足助鈴木など巴川沿いに交通の要所をおさえて鈴木一族は勢力を伸ばしていった。よって鈴木一族は、重善を三河鈴木の祖として敬っていた。重善から約四百年後、則定に生まれた鈴木正三も先祖を敬い、寛永八年(一六三二)年に医王寺を修復している。このような訳で矢並に住んでいる鈴木さんは八百年前の鈴木重善がご先祖さまであるかもしれない。鈴木一族に関心を持ってもらったところで鈴木正三が残したことを紹介した。ただし小学生の人に分かるように私はずきのように言い換えた。「この世の中は、お互いを助け合うことによって成り立っています。自分のやるべきことに心を込めておこないましょう」と。この世に存在する草木も動物も人間も変化し続けて不変なものは何ひとつない。存在するすべてのものがお互いに支え合って命を保っている。すべては相互関係。ひとたび命を失えば二度と手に入れることは不可能である。そのような命を草木も動物も人間も平等に授かっている。ただし、二度と手に入れることができないと自覚できるのは人間だけである。人として生まれたことがいかに希有なことかと小学生の人も気づいてほしかった。楽しくうれしいことがあるでしょう。辛く苦しいこともあるでしょう。それは生きていくから味わえるのです。妄想にふけらず、今できることを心からする。これが小学生の皆さんに伝えたいことです。

さとう・いちどう、豊田市綾渡町奥 12、平勝寺住職。1948年名古屋生まれ。同志社大学工学部卒。1976年、紫竹林安泰寺にて出家、同寺にて十年修行、1988年から平勝寺に住む。

この欄へのご感想・ご意見をお待ちしています。弊社ホームページ <http://www.yahagishinpo.com/> E-mail [kikaku-yahagi-s@asahi-net.email.ne.jp](mailto:kikaku-yahagi-s@asahi-net.email.ne.jp) をご利用下さい。

—10人会—リレー・エッセー [B12] — 2022.5.13

新型コロナウイルス感染防止のため私たち僧侶の間でもオンライン会議が行われています。  
従来、重要な会議は名古屋で行われることが多く、豊田市の中山間に住職地がある私は、二時間の会議に出席するため丸一日費やしていました。ところが情報通信技術のお陰で時と場所の制約を受けず、山寺の一室で会議に参加できるようになりました。  
それでも対面して話し合わなければならない議題があり、先日久しぶりに車で名古屋に出かけました。  
信号待ちで停車していると、同じ研修資料を持った新入社員の一団が目の前を

## 三正が捨てた武士のための道求



佐藤一道

# 職業に就くことの意味とは

で「困難な状況に陥ったとしても、どうにか乗り越えてほしい」と願いました。なぜなら会社を辞めたいと悩んでいる青年について最近、出会ったからです。  
長時間労働で過労死したり、ハラスメントを受けて心が病むのであれば転職し

たほうがよいと私は思っています。そのうえで、職業に対する気持ちを確かめるため青年に質問しました。  
「今の職業を選んだのは高収入を得るため？ 皆から羨ましがられる職種だったから？」  
青年はふたつとも否定し

ました。  
人々が毎日それに従事し社会とつながり、生計を維持する活動が職業です。しかし生計を維持する点のみならず、意に沿わない職業に一生従事できません。現代より職業選択に制限

な政治的価値観で、お百姓さんは満足したでしょうか。決して満足しなかったでしょう。とは言え毎日、不平不満を持ったままの人生も受容できませんでした。  
人々は政治的価値観と無縁のところ、日々の暮ら

さとう・いちどう、豊田市綾渡町奥 12、平勝寺住職。1948年名古屋生まれ。同志社大学工学部卒。1976年、紫竹林安泰寺にて出家、同寺にて十年修行、1988年から平勝寺に住む。

この欄へのご感想・ご意見をお待ちしています。弊社ホームページ <http://www.yahagishinpo.com/> E-mail [ne.jp](mailto:ne.jp) をご利用下さい。